



東京歯科大学広報



笑顔で卒業式を終えた第118期生：平成25年3月15日（金）、千葉校舎図書館前

第118回卒業証書・学位記授与式

平成25年3月15日（金）午前10時。キャンパスを彩る満開の河津桜に祝福されて、第118回卒業証書授与式が千葉校舎講堂において挙行された。

千葉校舎での最後の卒業生となる131名は、6年間のあふれる思いを胸に、歯科医療の世界へと確かな一歩を踏み出して行った。



2013年2・3月

259号

本号の主な内容

- ・ 第118回卒業証書・学位記授与式 1
- ・ 寄附行為施行細則第4条並びに第5条に規定する
役職者の選任について（報告） 10
- ・ 平成24年度口腔科学研究センターワークショップ開催 22
- ・ 第62回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式挙行 31

今年卒業証書授与式に先立ち、大学院歯学研究科修了式が行われ、大学院修了生37名を代表して黒田英孝大学院生に修了証が授与され、滞りなく終了した。

国歌斉唱後、佐藤 亨学生部長から開式の辞が述べられ、厳粛な卒業式が開会された。

柳澤孝彰副学長の学事報告に続いて、河田英司教務部長から卒業生131名の名前が呼名されると、緊張の中にもようやくこの日を迎えられたという安堵した表情が印象的だった。最後に井出吉信学長から卒業生代表の来田祐実さんへ、卒業証書が授与された。

褒賞各賞の受賞（受賞者はP9に記載）は、学長賞に来田祐実さんが選ばれて賞状及び金メダルの授与を受けた。血脇賞受賞者4名を代表して覺本貴仁君に、精励賞受賞者10名を代表して田端倫子さんに、卒業論文賞受賞者5名を代表して石田結実香さんに、それぞれに賞状及び金メダルが授与された。また、平成20年にご逝去された故井上 裕元理事長のご遺徳を受けて114期の卒業式より「井上 裕賞」が設置され、5人目の受賞者として飯田雄太君が選ばれた。

その後、井出学長が卒業生へ告辞を述べられ、祝辞を金子 讓理事長、宮地建夫同窓会副会長（矢崎秀昭同窓会会長祝辞代読）が卒業生へと贈られた。また、在校生を代表して星野立樹君（5年）から送辞が読み上げられ、これに応じて卒業生代表の来田祐実さんが答辞を述べた。

最後に久保周平講師（口腔健康臨床科学講座）指揮、堀 眞穂さん（3年）の伴奏により全員で校歌を斉唱し、第118回卒業証書・学位記授与式は閉会した。

引き続き、記念品贈呈式が行われ、大学、同窓会、



卒業生を代表して卒業証書を授与される来田祐実さん：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂



告辞を述べる井出学長：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂



祝辞を述べる金子理事長：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂



血脇賞受賞者4名を代表して覺本貴仁君が受賞：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂



井上裕賞を受賞する勉強対策委員長の飯田雄太君：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂

父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ、記念品が贈呈された。

式を終えた卒業生は体育館2階アリーナへ移動して、恩師と共に記念撮影を終え、第4教室にて石井拓男副学長から卒業生一人ひとりに卒業証書、ならびに各褒賞受賞者に賞状・金メダルが授与され、全ての行事が終了した。



精励賞受賞者10名を代表して田端倫子さんが受賞：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂



卒業論文賞受賞者5名を代表して石田結実香さんが受賞：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂



在校生を代表して送辞を述べる星野立樹君（5年）：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂



同窓会より会員章の贈呈を受ける飯田雄太君：平成25年3月15日（金）、千葉校舎講堂

学事報告

東京歯科大学

副学長 柳澤 孝彰

現在、本学に在籍する学生は、820名であります。

これらの学生の教育については、専任者として教授56名、准教授52名、講師69名、助教133名、助手1名の合計311名、このほかに臨床教員、客員教員、嘱託教員および非常勤講師の合計516名、合わせて827名が担当しております。

本日、第118回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、前記在籍者のうち131名であります。これを大学設置以来の卒業生と合わせますと8,606名、専門学校設置以来の卒業生と合わせますと14,619名となります。

なお、高山歯科医学院創立以来の卒業生を通算しますと14,910名となります。

平成25年3月15日

告 辞

東京歯科大学

学 長 井出 吉信

第118期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。またご来賓、保護者のご出席を賜り、深く感謝申し上げますとともに、お祝いを申し上げます。

皆さんの卒業回数である118回は、本学の前身 高山歯科医学院の第一期生10名の明治28年卒業から始まっており、120年を超える歴史の中で連綿と引き継がれた回数であります。そして本日をもって118期生が東京歯科大学の歴史に刻まれました。

本学において、最先端の歯科医学・歯科医療の知識・技術を学び、そして医療人として必要なコミュニケーション力を培ってきましたが、これからは臨床研修の場で歯科医師としての第一歩が始まります。ひとり、ひとりがしっかりと目的意識をもって歯科医療に向かい、医療の現場でさらに磨き上げ、国民に信頼される歯科医師を目指していただきたいと思います。常に歯科医療は進歩していきます、生涯学ぶ姿勢を持ち続けてください。

また、臨床研修終了後における大学院での研究体制や各病院での研修制度も、本学は大変充実しています。昨年11月には、本学とゆかりの深い慶應義塾大学医学部との間で連携協定を締結しました。これは、教育・研究・臨床において相互に交流を深め、連携し、歯学と医学の進歩と発展に向けて、学術活動を推進していくことに合意して締結されたもので、大学間における連携をさらに強化していく予定であります。

本年は、メインキャンパスを水道橋に移転し、東京歯科大学の新たなスタートの年となります。8月に竣工記念式典、そして9月には水道橋校舎の開校式を行う予定であります。

卒業生におかれましては、これからも本学同窓として、末永く母校の発展を温かく見守っていただければと思います。さらに、今後も生涯教育の場として母校を大いに利用していただきたいと思います。そのことが後輩への良い励みにも繋がると思っております。

ノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥京都大学教授は記者会見で、「家族の支えがなければ研究という仕事は続けられなかった」とご家族への感謝の言葉を述べられていました。皆さんも卒業にあたって、まず、ご両親ご家族への感謝の気持ちを大切にしてください。

最後になりますが、皆さんの今後のご活躍を祈念いたしますと共に、改めてお祝いを申し上げまして、告辞といたします。

祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 金子 譲

第118期生の皆様、保護者の方々、ご卒業おめでとうございます。皆さんは学業で大変厳しいハードルを越えてきましたので、今日の卒業式は大きな達成感と喜びがあるかと思えます。

これから皆さんにとって、東京歯科大学は母校になります。母校とは一体どのような学校だったのかということをお話しして、祝辞とさせていただきますと思います。

先ほどの井出学長のお話のように、歯科医学・歯科医療は歯・口腔の健康が全身の健康に繋がるということで、極めて医学的な面が強くなってきています。実際に臨床の場では医科が歯科の医療を取り込み、患者さんの健康に繋げていくことが始まっています。皆さんはこれからの臨床の場において、このことを意識し、新しい時代を担っていただきたいと思います。

東京歯科の123年の歴史の間に大学が何をしてきたかということが大学の特徴になると思えます。ま

ず明治時代では、西洋の文明を導入し、近代化が始まりました。近代化に伴い歯科という新しい医学部門が導入され、この時東京歯科大学の先達は教育体系を整備しました。1890年（明治23年）に開校した高山歯科医学院は、その後東京歯科医学院となり、現在まで継続している日本最古の歯科医育機関です。明治36年の専門学校令により、行政的に各種学校であった慶應、早稲田、明治等の私立学校が専門学校になり、そこで初めて私立の高等教育が体系づけられます。東京歯科医学院は明治40年に歯科で日本最初の専門学校になりました。

また明治政府の方針で、専門学校は研究を行わず、教育をしっかりと行うという方針でしたが、その方針に甘んぜず懸命になって研究をも行った成果により、東京歯科医学院の先生が日本で初めて、歯科で医学博士号の1号、2号を慶應義塾大学と東京慈恵会医科大学で取得しました。その後第2次世界大戦の敗戦により、米国式の教育が日本に導入され、昭和21年に東京歯科医学専門学校は歯科として日本で初めて大学になりました。このように東京歯科大学は常にフロントランナーであると思っています。東京歯科大学の歴史は色々な意味で歯科界に大きく貢献をし、同時に歯科医療、歯科医師の業種の確立でも大きな役割をしています。こうした役割を担ってきたのは創立をされた高山紀齋先生、そして後継者の血脇守之助先生を中心とした方々の尽力であったと思っています。

お二人とも非常に国際性豊かな方でした。高山先生は明治5年に米国に行きました。明治元年から明治5年までの間に欧米に留学をした168名の中で医学のために留学した方は8名、ドイツが7名で、米国が1名です。そして、歯科で留学した方は高山先生だけです。血脇先生は僅かに1回しか欧米には行っていませんが、早い時期から当時最大の国際的な歯科医学会の役員をされ、併せてご自分の配下の先生方をそこに参加させてきました。今盛んに大学の役割の中でも、国際性と言われていますが、最初から東京歯科大学は国際性を持った大学と言えると思います。

フロントランナーといわれる東京歯科大学は、その言葉どおり新しく切り開いていくという精神が旺盛な大学だと思います。皆さんの先輩方である身近な先生方は歯科医療・歯科医学を引っ張っている方々が多いのです。それが東京歯科大学の伝統だと思います。

こういう中で血脇イズムという言葉が生まれました。血脇先生は元々民主主義の権化のような方で、東京歯科大学の同窓は皆家族だという家族主義でもありました。これを皆さんが血脇イズムと言いましたが、血脇先生がご自分で血脇イズムについてどう考えていたかということは、先日図書課長が見つけてくれた、大正15年発行の学生新聞に載っていました。

「私は馬車馬のように遮二無二突進したのである。事の成敗利鈍の如きは第二の問題として苟も自己の義務と責任との命ずる處には最善の努力を傾倒して驀地驀進したのである。そこには利害を打算する餘裕の如きは微塵もない、ただ一心不乱である。何でもかんでもやれるだけやつつけたのである。諸君の所謂チワキイズムの本態は之れでなければならぬと私自身に思ふ。水道橋精神なるものも願はくは之れであつて欲しい。」

と仰っています。一心不乱にやってくださいということです。ただもう一つ、ご自分のやってきたことを顧みて、血脇先生は次の言葉を残していらっしゃいます。

「世の中は五分の真味に、二分侠気、あとの三分は茶目でくらせよ」

とにかく真面目に一心不乱にやるのは生き方の中で五分、同時に利害を無くして義を持つてするのが二分、そして自分の人生を豊かにするために残りの三分を使えと、血脇先生は野口英世先生が中国に渡るときにこの言葉を贈っています。

我々は皆さんを大切に育ててきました。今後とも母校に愛情を持っていただき、後輩を温かく見守っていただきたいと思っています。

今日は本当におめでとうございませう。これからも頑張ってくださいと思っています。

祝 辞

東京歯科大学同窓会

会 長 矢崎 秀昭

本日ここに第118回の卒業証書授与式に当たり、卒業生ならびに今日まで深い愛情を持ってお育てになられたご父兄の皆さまに、東京歯科大学同窓会を代表して心からお祝い申し上げます。

本日より卒業生の全ての皆さまは、母校と共に長い輝かしい伝統を誇る本学の同窓会の会員となります。我々同窓はもろ手を挙げて皆さまの入会を心から歓迎申し上げます。

今日の日本は少子高齢社会、震災からの復興、周辺諸国との緊張、さらに長年に渡る社会の構造的な歪など、未曾有の国家的な危機に直面しております。

さらに歯科医療界におきましても、医療保険の財政的問題、一般社会からの指摘、さらに歯科大学間の生き残りを賭けた熾烈な競争など、誠に厳しい環境となっています。

しかしながら、人の寿命がいくら長くなったとしても、人間らしく、心身ともに健康な生活ができなくては長寿社会の本質的な意味がありません。人間は口から、その生きる源となる食物を美味しく、楽しく食べるのが健康な生活を維持するうえで最も大切なこととなります。

卒業される皆さまが、これから生涯の天職として取り組もうとしている歯科医師の仕事は、まさに、人々の生きる力と健康な生活を支える素晴らしいことです。

120年に及ぶ本学の発展の足取りは、日本の歯科医学の歴史そのものであります。皆さまの先輩となる、本学の同窓の方々は、近代の歯科医療の誕生以来、関東大震災、さらに日本が壊滅状態までなった第二次世界大戦など幾多の困難を乗り越り、常に歯科界をリードし、ついに世界に冠たる、今日の日本の歯科医療を築きあげてまいりました。

本日、卒業される皆さまには、この素晴らしい本学の歴史と、先人の活躍を引き継ぎ、日本を代表し、国際的に活躍できる、歯科医師とされることを心から願っております。

卒業と同時に皆さまは同窓会の会員となり、特に卒業後五年間は同窓会の新進会員となって戴きます。

この新進会員の間に同窓会としては、会員お一人お一人とのより強い連携を保ち、出来る限り、同窓の皆さまのお役に立つことを目標に多方面に渡る活動をしております。

現在、同窓会におきましては、先ず医療技術面でのサポート体制として、毎月のように実習を伴う各種、卒後研修セミナーを開催しています。さらに、医療技術だけでなく日々の診療にすぐに役立つ、若手支援セミナーを開催するなど、特に若手の同窓の方々への支援体制の確立を目指しております。

卒業生の皆さまが、東京歯科大学の同窓会員として、社会において素晴らしいご活躍をすることと、東京歯科大学が今後とも歯科大学の雄として発展することを心から祈念し、祝辞と致します。

送 辞

在校生代表

星野 立樹

今年の冬は寒さが一段と厳しかったこともあり、この別れの日の春の日ざしが、柔らかく優しく感じられます。

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

希望に胸を膨らませ本学に入学され、本日まで多くの出会いやご経験をされたことかと存じます。

本日は六年間という道のりのゴールですが、新しい生活へのスタートでもあります。これから歯科医師としての人生で、期待や希望に胸を膨らませている方、あるいは先の見えない不安で押しつぶされそ

うな方もいるかもしれません。時には、大きな困難や苦勞に直面することもあるかもしれません。

そんな時は、定期試験や総合試験、そして歯科医師国家試験を制覇された知識と経験を糧とし、凌駕してください。

いつも身近でご指導くださった先輩方とお会いできなくなることは寂しいですが、私たち在校生は先輩たちが本学で歩まれた御姿を模範とし、伝統を引き継ぎ、より高い志を持って後に続いていけるよう努力していきたいと思います。また、医療の現場でお会いできる日を楽しみにしています。

最後になりましたが、ご卒業される皆様のより一層の御活躍とご健康をお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

答 辞

第118期卒業生代表

來田 祐実

寒さも徐々にやわらぎ、日増しに春めいて参りました。

本日は、私たちの卒業証書授与式に、ご来賓ならび諸先生方をはじめ多数の皆様のご臨席を賜り、卒業生一同、心より厚く御礼申し上げます。

只今、井出学長の告辞、そして金子理事長はじめご来賓の皆様より励ましのお言葉を頂き、身の引き締まる思いでございます。また、在校生から心温まる送辞を頂き、ありがとうございました。

私たちが東京歯科大学に入学したのは今から6年前のことでした。着慣れないスーツを身にまとい、初めて見る同級生たちにぎこちなく挨拶し、これから始まる大学生活に多少の不安と大きな期待を抱いた日のことが、つい先日のことのように思い出されます。

学生生活を振り返ると、私たちは様々なかけがえない経験をして参りました。

1年生の頃は、勉学においては、ただひたすら基礎を学び、そしてそれ以外の時間は、部活動に励みました。それぞれの部活動で色は違うかもしれませんが、かけがえない先輩、後輩、そして同学年の仲間に出逢えたことは、皆同じではないかと思えます。

2年生になり、初めて歯科に関する授業を受けることとなりましたが、これが東京歯科大学かと、圧倒される授業ばかりでした。

3年生になると、手を動かす実習が始まります。手先が不器用な私にとっては地獄のような日々でしたが、それでもやり遂げられたのは、手先の器用な先生方のご指導や、手先の器用な友人たちの支えがあったからに違いありません。

4年生では、実習を行いつつ、座学の時間も増え、更に歯科に関して知識を増やしていきました。定期試験、総合試験、CBT、OSCEを乗り越え、この頃から少しだけ国家試験というものの存在を感じるようになっていた気がします。また、4年生は部活動の引退の時期でもあり、自分たちが一番上となって後輩を引っ張っていかなければならないという責任の重さも感じていた頃でもありました。様々な面で、私たちはこの時期に成長していたのではないかと思います。

5年生となり、病院で実際に患者様と向き合う登院が始まりました。今までとは違い、教科書で学んだことを実践する毎日で、初めて自分で患者様に触れさせて頂き、患者様からの感謝の言葉に喜びを感じた日々、そして、上手く行かず落ち込んだ日々もありました。しかし周りには常に、熱心に指導して下さる先生方、支えてくれる家族、共に苦難を乗り越えてきた友人の姿がありました。その支えがあったからこそ、私たちは登院をやり遂げることができたのだと思います。

そして6年生となり、私たちははいよいよ国家試験を目の前に迎えることとなります。主任、副主任の先生方の熱い指導はもちろんですが、毎日のように授業をしていた勉強委員長やその他の勉強委員の方々の姿を見て、本当に学年がひとつになっているように感じていました。皆で同じ目標を掲げ、今ま

で以上に一致団結して勉学に励み、あっという間に6年生としての一年間が過ぎていきました。

そして今日、私たちは卒業の日を迎えます。今も実感が湧きませんが、ただひとつ分かることは、ここまで皆でやってこられたのは、いつも温かく、そして厳しく指導、支援して下さった先生方、家族、そして友人のお陰だということです。本当に心から感謝しています。

これからは131名、それぞれ自分で決めた道を歩むこととなります。

しかし、本学の健学精神である「歯科医師たるまえに人間たれ」という言葉を忘れることなく、東京歯科大学の卒業生であるという誇りを胸に、日々精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、これまで指導、支援して下さった諸先生方、職員の方々、そして家族、私たちの大学生活に関わって下さった全ての方々に、改めて深く御礼申し上げます。

そしてこれからもどうか私たちを温かく見守っていて下さい。

皆様の期待に応えられるよう日々努力することをお約束し、またゆかりの地・東京水道橋へ移転する東京歯科大学の更なる発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

水道橋キャンパスニュース

■水道橋新館校舎（仮称）建設工事現況



建設工事現況（平成25年3月28日現在）



建設工事現況（平成25年3月28日現在）

寄附行為施行細則第4条並びに第5条に規定する 役職者の選任について（報告）

平成25年1月17日

各位

学校法人東京歯科大学
理事長 金子 譲

標記の件について平成25年3月28日（木）開催の第682回理事会にて、寄附行為施行細則第4条並びに第5条に規定する役職者（平成25年6月1日）が選任されましたのでご報告いたします。

1. 寄附行為施行細則第5条に規定する役職者

副学長	石井 拓 男 教授(重 任)
副学長	一 戸 達 也 教授(新 任)
千葉病院長	井 上 孝 教授(新 任)
市川総合病院長	西 田 次 郎 教授(新 任)
水道橋病院長	矢 島 安 朝 教授(新 任)
大学院歯学研究科長	田 崎 雅 和 教授(新 任)

任期：平成25年6月1日から平成28年5月31日

2. 寄附行為施行細則第4条に規定する役職者

歯科衛生士専門学校長 井 上 孝 教授(新 任)

任期：平成25年6月1日から平成28年5月31日

■教授定年退職のご挨拶

平成25年3月31日付をもって、口腔外科学講座 内山健志教授が定年を迎えられ、退職された。

定年退職のご挨拶



口腔外科学講座

内山 健志

昭和48年に本学を卒業後ただちに口腔外科学教室に入局、以来、40年にわたり口腔外科学の教育、臨床、研究に携わってまいりました。おかげをもちまして、大過なく本年3月31日、定年を迎えることができましたこと、関係各位に満腔の感謝を申し上げる次第であります。

入局後しばらくは口腔外科学とその診療を広く学ばせていただきましたが、口蓋裂術後患者に対する咽頭弁移植術による音声言語の改善に関する研究を学位論文として纏めましたので、その後は口唇裂・口蓋裂の臨床と研究をライフワークに定め、今日まで邁進してまいりました。おかげで、多くの人の支援を得て口腔外科の教科書では、この分野の執筆を中心にを行い、海外の雑誌にもエビデンスの発信ができました。さらに英文のテキストブックへの執筆を依頼されたのも、まことに幸いでした。また、ベトナムなどアジアの医療援助や海外での学会でライブサージェリなどを通して世界の強豪と競い合うことで欧米をはじめ多くの知人の厚誼を得、平成22年には日本口蓋裂学会を主催して成功裏に終えたことは大きな喜びでした。

診療においては、口腔外科部長の時に医療の根幹をなすリスクマネジメント部会を千葉病院において下の現場から最初に立ち上げたこと、教育においては学年主任を担当した108期生が全国トップで100%の国家試験合格を果たしたことは、心ひそかに誇りとしております。

本学校歌の「医はこれ済生、ひとえに仁なり」に続くフレーズは、4番ともすべて恩師にかかわることが詠われております。口唇裂・口蓋裂の基礎の教示と論文の指導をいただいた故高橋庄二郎

名誉教授、歯科学報カラーアトラスへの連載執筆と実際の手術の機会を与えていただいた故重松知寛教授、この分野における口腔外科学会への後押しをしていただいた野間弘康名誉教授の口腔外科先達の諸先生に深甚なる謝意を表するとともに、携わっていただいた多くの方々に御礼を申し上げます。

結びとして本学の益々のご発展を願い、惜別と退職の挨拶とさせていただきます。

学歴、職歴および学内における経歴

昭和48年 3月	東京歯科大学卒業
昭和48年 4月	東京歯科大学口腔外科学第2講座 入局
昭和49年 4月	東京歯科大学口腔外科学第2講座 助手
昭和54年 4月	東京歯科大学口腔外科学第2講座 講師 および同大学大学院歯学研究所実習指導教員
昭和56年 4月	歯学博士の学位受領(東京歯科大学)
昭和59年 9月	チューリッヒ大学顎顔面外科学講座に視察 および意見交換
昭和61年 9月	東京歯科大学茶道部部长
平成11年10月	東京歯科大学口腔外科学第2講座主任教授
平成12年 9月	東京歯科大学第6学年主任
平成13年 4月	東京歯科大学第5学年主任
平成13年 6月	東京歯科大学大学院研究科学生部長
平成13年 6月	東京歯科大学千葉病院口腔外科部長
平成13年 6月	東京歯科大学千葉病院副院長
平成13年 6月	東京歯科大学大学院運営委員会委員
平成13年 6月	東京歯科大学千葉病院薬剤治療審査委員会 委員長
平成13年 6月	MRSA院内感染対策委員会委員長
平成13年 6月	東京歯科大学千葉病院薬事委員会委員長
平成13年 6月	東京歯科大学学舎理事
平成14年 4月	東京歯科大学第6学年主任
平成16年 6月	東京歯科大学環境安全管理部長
平成17年 4月	東京歯科大学口腔外科学講座教授
平成19年 6月	東京歯科大学広報・公開講座部長
平成23年 7月	東京歯科大学図書館副館長

資格・免許

昭和48年 5月	第53回歯科医師国家試験合格
昭和48年 6月	歯科医籍登録 第63814号
昭和56年 8月	日本口腔外科学会認定制度による口腔外科 認定医(第45号)
平成 2年 9月	日本口腔外科学会認定制度による口腔外科 指導医(第284号)
平成 9年12月	厚生省臨床修練指導歯科医(第247号)
平成12年 4月	更生(育成)医療指定医(東京歯科大学千葉病 院)
平成13年11月	麻薬使用者免許(歯第A 108号)
平成19年 4月	自立支援医療担当医師(東京歯科大学千葉病 院)
平成20年 3月	身体障害者手帳交付申請にかかる唇顎口蓋 裂後遺症によるそしゃく機能障害に関する意 見書作成歯科医師(東京歯科大学千葉病院)

主な学会および社会における活動

昭和54年 6月	東京都社会保険診療報酬請求書審査委員
平成11年	第2回大韓口唇口蓋裂学会研修会 教育講演 (Seoul、大韓民国)
平成11年	第40回中華人民共和国武漢医科大学口腔科 学会 招待講演(武漢、中華人民共和国)

平成14年 平成16年	日本口蓋裂学会理事および編集委員 The 3rd Biennial World Congress of International Cleft Lip and Palate Foundation invited speaker (ハリファックス、カナダ)	平成23年	Invited speaker of 第7回アジア太平洋Cleft Lip and Palate Craniofacial 関する (Perth, オーストラリア)
平成17年 平成17年	日本口蓋裂学会学術調査委員長 Live surgery in 1st International Workshop of the ICPF (チェンナイ、インド)	平成24年	Live surgery in Cleft 2012 ICPF (Seychelles 共和国)
平成18年	Invited speaker of Cleft 2006 ICPF (Eastbourne, イギリス)	賞 罰	
平成20年	Invited speaker 第4回国際イラン顎顔面外科学会(イラン、テヘラン)	昭和38年 3月	大隈賞(早稲田中学・高等学校)
平成21年	Invited speaker of ICPF Cleft 2008 (グラス、アメリカ合衆国)	平成16年 6月	ICPF Award of Merit The 3rd Biennial World Congress of International Cleft Lip and Palate Foundation
平成22年	第34回日本口蓋裂学会を会長として開催(北区、東京)	平成17年11月	Ho Chi Minh City 人民委員会委員長より10年にわたる口唇裂・口蓋裂患者への医療援助に対する表彰状

■名誉教授の推薦

平成25年2月13日(水)の第609回教授会において、本学名誉教授規程に基づき、本年3月31日付で定年退職される内山健志教授を名誉教授に推薦

することが了承された。これを受け、平成25年2月22日(金)開催の第681回理事会において平成25年4月1日付の推薦が承認された。

学内ニュース

■一般入学試験Ⅰ期・大学入試センター利用試験Ⅰ期、一般入学試験Ⅱ期・大学入試センター利用試験Ⅱ期、編入学試験B、学士等特別選抜B

平成25年度一般入学試験(Ⅰ期)・大学入試センター利用試験(Ⅰ期)が、平成25年2月2日(土)午前9時から水道橋校舎及び大阪会場の天満研修センター、福岡会場のTKP天神シティセンターの3会場において実施された。Ⅰ期は、一般入学試験342名、大学入試センター利用158名、併願者134名、合計500名(実数366名)の志願者があった。一般入学試験志願者には英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接を実施した。大学入試センター利用試験志願者は、1月19日(土)、20日(日)に実施された大学入試センター試験において本学が指定した科目を予め受験してもらい、2月2日(土)に水道橋校舎及び大阪会場、福岡会場において小論文、面接試験を実施した。一般(Ⅰ期)、大学入試センター利用(Ⅰ期)共に2月6日(水)午後5時に本学ホームページにて合格者が発表され、合格者に合格通知が発送された。

平成25年度一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)が平成25年3月9日(土)午前9時から水道橋校舎において実施された。一般入学試験では152名、大学入試センター利用24名、併願者22名、合計176名(実数154名)、また、編入学試験B、学士等特別選抜Bも同時刻に水道橋

校舎で実施され、11名の志願者があり、小論文・小テストおよび面接試験が行われた。編入学試験Bの合格者は、来年度の第2学年に編入、学士等特別選抜Bは第1学年に入学する。

■歯科医師臨床研修指導歯科医教育講習会開催

平成25年2月14日(木)午後5時30分より、千葉校舎講堂において、「歯科医師臨床研修指導歯科医教育講習会」が開催された。本講習会は、歯科医師臨床研修における指導歯科医を対象として、平成22年に改訂された「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の、改訂された内容を周知するため、高齢化への対応、医科と歯科の連携を図るという観点から、以下の内容で開催された。

【第一部】高齢化への対応について

1. 「超高齢社会における歯科医療Ⅰ社会的ニーズ」
鶴見大学歯学部 高齢者歯科学講座 教授
日本老年歯科医学会 理事長
森戸 光彦 先生
2. 「超高齢社会における歯科医療Ⅱ在宅医療の現状」
鶴見大学歯学部 高齢者歯科学講座 講師
日本老年歯科医学会 理事長幹事
菅 武雄 先生

【第二部】 医科と歯科の連携について

1. 「内科疾患と歯科治療－歯科臨床医のための内科疾患の基礎」

東京歯科大学 内科学講座 教授

東京歯科大学市川総合病院 副病院長

西田 次郎 先生

当日は282名の参加者を迎え、高野伸夫千葉病院長の挨拶から講演会が始まった。第一部は、森戸光彦教授、及び菅 武雄講師より高齢化への対応について、超高齢社会において求められる歯科医療、在宅医療の現状と今後について講演された。第二部は西田次郎教授より医科と歯科の連携として、歯科臨床医のための内科疾患の基礎知識について講演された。今後の歯科医師臨床研修の指導にあたり、大変有意義な講習会となった。

■平成24年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会開催

平成25年2月14日(木)午後6時より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成24年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会が開催された。この会は、1年間の臨床研修の総括として、臨床研修歯科医自らが治療を行った症例について学会形式で報告するものである。第10回目となる今回は、15名の臨床研修歯科医全員が持ち時間5分の口頭発表により症例報告を行った。

報告会は水道橋病院の教職員の他、協力型臨床研修施設の指導医の先生方にもご臨席いただき、活発な質疑応答が行われ、今後の診療に役立つアドバイスもいただいた。

なお、各発表は「発表内容の理解度」「プレゼンテーション能力」「診断および治療計画の立案」等



発表後の質疑応答：平成25年2月14日（木）、水道橋校舎13階ルームB

の項目で評価され、評価を集計の上、優秀な発表者3名を研修修了式にて表彰する予定である。また、全ての発表内容を報告書として後日まとめる予定である。

研修修了を間近に控えた臨床研修歯科医にとって、この症例報告会は1年間の研修の集大成であり、その締めくくりに相応しい会となった。

■第4学年共用試験CBT-OSCE実施

平成17年度から正式実施となった『臨床実習開始前の学生評価のための共用試験』（医療系大学間共用試験実施評価機構）が、第4学年生を対象に行われた。これは、社会からの要請に応え、信頼される医師・歯科医師を養成するために、全国の医歯学部を有する大学が参加し、診療参加型臨床実習を推進するにあたり学生が一定水準以上の知識、技能、態度を有しているか評価するものである。CBT（コンピュータによる客観試験：知識領域）が、平成25年2月20日（水）に水道橋校舎13階ルームAで、OSCE（客観的臨床能力試験：態度・技能領域）が、2月24日（日）に千葉校舎臨床基礎実習室、臨床シミュレーション実習室、セミナー室等において実施された。また、CBT再試験が3月13日（水）に行われた。

CBTは、122名の学生が一斉にコンピュータ画面に向かって多肢選択式の試験に取り組んだ。今年も昨年同様、選択肢が6つ以上設けられる多選択肢問題の2連問（L形式）順次解答型五肢択一問題の2連問、4連問（W,Q形式）、五肢択一問題（A形式）の各形式で合計320問、6時間におよぶ試験が行われた。学生は、最後にコンピュータ上でアンケートに答え、試験を終了した。

OSCEは、医療系大学間共用試験実施評価機構で策定された共通課題、評価シート、評価マニュアルに従って実施され、医療面接・説明指導系2課題、技能系4課題にレスト（休憩）を加えた8ステーション（ST）で実施された。機構から2名のモニター、他大学から6名の外部評価者、外部から8名の標準模擬患者（SP）の協力を得て、総勢180名を超えるスタッフを動員して行われた。臨床実習を間近に控えた学生たちは、真剣な面持ちで試験に臨んでいた。

■市川市医師会・歯科医師会員など医療関係者講演会および懇親会開催

平成25年2月21日(木)午後7時より、市川総合病院と地域の各医療機関との病診連携の強化を推進するため、市川市医師会・歯科医師会員の先生方を招いて講演会および懇親会が、市川グランドホテルにて開催された。

講演会では、慶應義塾大学医学部 生理学教室の岡野栄之教授をお招きして、「iPS細胞技術を用いた神経系の再生と疾患研究」と題した講演を伺った。

まず、昨年のジョン・ガードン博士、山中伸弥教授のノーベル医学・生理学賞受賞の経緯について説明され、これまでのiPS細胞技術を用いた演者の研究と今後の展望について説明された。要旨は以下の通りである。

多能性幹細胞であるES細胞、iPS細胞を樹立することは、一度分化した細胞を初期化するという点で共通の技術である。しかし、ES細胞は胚細胞を用いるため、技術的、倫理的問題および拒絶反応の問題があるのに対し、後者はこれらの問題を解消して、医療へ応用が容易な点で画期的である。演者らはiPS細胞を応用し、脊髄損傷動物モデルなどにおいて神経の再生医療が可能であることを示した。まもなく、ヒトでの臨床試験に入ろうとしている。また、演者らは遺伝性の希少難治性疾患や原因不明・難治なアルツハイマー病などの神経疾患患者のiPS細胞を樹立して、その病態生理の解明や、創薬への応用に取り組んでいる。

今後、iPS細胞技術を応用することにより、再生医療のみならず、発病しても無症状の段階で発症を抑える先制攻撃的医療が可能になると強調された。180名を超える参加者からは、大いに関心



講演される岡野教授：平成25年2月21日(木)、市川グランドホテル

が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、大変有意義な講演会となった。

講演会終了後には、同ホテルにおいて懇親会が行われ、患者を通じてのやりとりはあるものの直接会ってお話する機会はなかなか無いため、懇親会では市川総合病院の教職員紹介と、医師会・歯科医師会員の先生方、および市川市の紹介が行われた。和やかな雰囲気の中でお互いの距離を縮めることのできた有意義な懇親会は盛会のうちに午後10時過ぎに終了した。

■第120回歯科医学教育セミナー開催

平成25年2月25日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第120回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「平成26年版歯科医師国家試験出題基準について」と題し、教務副部長の柴原孝彦教授(口腔外科学講座)より報告が行われた。

まずはじめに、歴史的背景として、平成18年に文部科学・厚生労働大臣による「歯科医師養成数の削減等に関する確認書」で歯科医師国家試験の合格基準の引き上げが提言されたことを契機に、国家試験の合格率は急激に下げられていて、近年の合格率は60%代(既卒者30%)であり、いわゆる一昔前の「資格試験」「確認試験」と言われていた合格率の高かった時代はすでに過去の話となっていると説明があった。

次に、歯科医師国家試験難易度の推移について、平成21年からは、正解肢数を指定せずに選択させる形式(いわゆる「XX問題」)が新たに出題されることになり、その試験難易度はさらに増すこととなり、平成22年からは、必修問題の増加(50題→70題)、XX問題の増加、さらに一般問題と臨床実地問題がA,B,C領域に区分され、それぞれが相対評価されることになったと説明があり、4年毎の出題基準改定委員会では、XX問題による受験生へ精神的な過度の負担を強いることは好ましくないと判断し、平成24年からは、XX問題を可及的に減じ、代わりに計算問題や多選択肢形式(6以上の選択肢から1つの正解肢を選ぶ問題)が出題され、今回の試験でも同様な傾向が見られたとの報告があった。

最後に、平成26年版では一層のXX問題の減少、多選択肢形式と数値問題の増加が予想されている

が、問題数と領域区分、そしてブループリント(歯科医師国家試験設計表)の割合に変化はなく、「過去各論の各領域において出題割合の10%程度を総論領域の項目から出題」を削除し、「歯科医学総論」においては「必修の基本的事項」の内容、「歯科医学各論」においては「必修の基本的事項」と「歯科医学総論」についても出題可となっていると説明があり、加えて出題項目では、章の新設として、「高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する出題(全身疾患、検査及び多職種連携等に関する出題)」、項目の新設として、「歯科口腔保健の推進に関する法律の制定を考慮した歯科疾患の予防管理に関する出題」、割合の増加と項目の新設として、①「医療保険と介護保険を含む現行の社会保障制度に関する出題」、②「口腔と全身疾患の関係に関する出題(禁煙指導と支援、食育と食の支援)」、③「救急災害時の歯科保健対策・法歯学に関する出題」などを充実させ、従来からの①小児虐待の対応、②医療安全・感染対策・薬害等、③放射線の人体に対する影響等、④診療に必要な医学英語も引き続き出題がなされると説明があった。

平成26年版案における最も大きな変更点は、各論の「Ⅵ 高齢者の歯科治療(18%)」の新設になるが、いずれにしても国民のニーズに対応できる歯科医師を育成できるよう教職員のより一層の協力が必要になると説明があった。



説明する柴原教授：平成25年2月25日(月)、千葉校舎第2教室

■水道橋校舎教職員研修会開催

平成25年2月25日(月)午後6時より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、水道橋校舎教職員研修会が開催された。今回は、独立行政法人労働者健康福祉機構メンタルヘルス対策支援センター促進員の根岸純子氏を講師にお迎えし、「メンタル

ヘルスケア対策 ～セルフケアのポイント～」と題した講演を伺った。本研修会は、事業所としての労働安全衛生管理ならびにメンタルヘルス対策の一環として、水道橋校舎衛生委員会の主催により、水道橋病院ならびに法人事務局の教職員を対象として開催したものである。

根岸氏は講演で、ストレスとは「外からの刺激による生体側のひずみと、その刺激に対抗してひずみを元に戻そうとする生体側の反応」と定義され、ストレスを引き起こす外的要因やストレス反応の現れ方について解説された。さらに、ストレス反応を疾病につなげないために、適切な対処行動が大切であると強調された。すなわち、食事習慣、睡眠習慣、運動習慣といった生活習慣を整えること、休憩をとる、気分転換をする、趣味を持つ、リラックスするといった行動を挙げ、それぞれ具体的な説明があった。

また、待ち合わせに相手が15分経っても来ないといったシチュエーションを例に挙げ、この時に起きる感情は不安や怒り、悲しみといった負の感情だけでなく、相手を心配する気持ち、自分の時間ができたなどの正の感情もあると述べ、一つのシチュエーションで物事の捉え方はさまざまであると説明された。物事に対する自分の認知傾向を知り、捉え方を変えることで、ストレスをコントロールすることが可能であるとの説明があった。

最後にストレスは抱え込まずに相談することが重要であると述べ、友人や家族、同僚や上司に相談できない場合には公共の相談機関を利用すべきと解説され、相談機関の紹介があった。

現在日本では年間3万人以上の自殺者がおり、そのうちの3割が労働者とのことである。教職員にとってメンタルヘルスの重要性を再認識する非



講演される根岸氏：平成25年2月25日(月)、水道橋校舎13階ルームB

常に有意義な研修会であった。

■平成25年度推薦入学者等の入学前スクーリング

本学へ入学予定の編入学生・推薦合格者を対象とした、入学前スクーリングが平成25年2月27日(水)12時30分より、水道橋校舎13階ルームAで開催された。

初めに、河田英司教務部長より挨拶があり、続いて各科目の確認試験が実施され、さらにそれら科目を担当される先生方から、大学教育における教養科目としての位置付けや学習内容について解説がなされた。

最後に入学後の学習面に関する事項や大学生活に向けての心構え等について、全体説明があり、参加者全員が真剣な面持ちで説明に聞き入り、来るべき歯科医師に向けての新生活への意気込みが感じられた。

■平成24年度口腔科学研究センターワークショップ開催

平成24年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップが、平成25年3月1日(金)午後5時より、千葉校舎第5教室において開催された。当日は、名誉教授、出版社の方々を含め約100名が参加し、活発な論議が繰り広げられた。

石原和幸口腔科学研究センター研究機器管理部長の司会で開会し、井上孝口腔科学研究センター所長より、口腔科学研究センター(口科研)組織の概要そして今後の展望についての講演が行われた。

次に私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクト研究hrc8が最終年度にあたることから、テーマ別に研究成果報告が行われた。まず、免疫機能・トランスレーショナル研究グループの概要説明が阿部伸一グループリーダーよりなされ、その後、細菌における免疫回避機構の解明(齋藤淳教授)が報告された。上皮機能研究グループについては、澁川義幸グループリーダーより概要説明が行われた後、口腔粘膜上皮組織を支配する三叉神経節(痛覚特異的ニューロン群)の特性解明(黒田英孝大学院生)、唾液分泌における傍細胞経路を通過する成分の共焦点レーザー顕微鏡観察(村上政隆 大学共同利用法人自然科学研究機構・総合研究大学院大学 准教授)の報告があった。

引き続き、学長奨励研究助成採択者の研究成果報告が行われ、①口腔粘膜上皮組織から多能性幹細胞の単離と培養法の確立(佐竹良之講師、当日は比嘉研究技術員が報告)②機能的環境下におけるマラッセの上皮遺残細胞の存在意義(松坂賢一准教授)③LLLTを用いた歯髄治療のトランスレーショナルリサーチ(村上聡講師)の3名から報告が行われた。



ワークショップ風景：平成24年3月1日(金)、千葉校舎第5教室

■平成24年度第9回水道橋病院教職員研修会開催

平成25年3月18日(月)午後6時より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成24年度第9回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、水道橋病院診療録指導委員である森岡俊介先生に「平成24年度の水道橋病院におけるカルテ指導の総括および保険診療と自費診療の考え方」と題した講演を伺った。

初めに、今年度水道橋病院で行われたカルテ指導の結果、SOAP形式でのカルテ記載により記載内容が充実してきているとの総評をいただいた。また、今後より一層のカルテ記載の充実と改善を図るために、算定上ならびに運営上の問題点を列挙された。特に両者に関連のある問題点として、一口腔単位での治療計画が欠落している上、退職等による担当医の引き継ぎ時のカンファレンスが不十分なため、治療計画に一貫性が無いと指摘された。

さらに、日本における医療保険の仕組みを法規と関連づけて説明され、保険給付診療と自費診療(保険給付外診療)の基本的な考え方について、具体例を示しながら解説された。とりわけ、混合診療とならないための治療計画立案の重要性を強調された。

質疑応答では、会場よりインプラント希望患者の初診対応についての質問がされるなど活発な議論がなされ、保険診療および自費診療についての理解を深める有意義な研修会となった。



講演される森岡先生：平成25年3月18日（月）、水道橋校舎13階ルームB

■第106回歯科医師国家試験結果

第106回歯科医師国家試験は、平成25年2月2日（土）、3日（日）の両日に実施され、3月19日（火）に合格者が発表された。今回の受験者は全国で3,316名、合格者は2,364名。合格率（全国平均）は71.3%であった。

本学からは、平成25年3月卒業の第118期生131名、既卒者4名の計135名が受験、見事130名が合格した。

昨年に続き、合格率96.3%（新卒者96.9%、既卒者75.0%）という驚異的な数字をたたき出し、全国29歯科大学、歯学部（国公私立）で2年連続トップの栄冠に輝いた。

■千葉校舎防災訓練実施

平成24年3月25日（月）午後1時30分より、千葉校舎において、夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、屋内消火栓操法の説明の3つが防災訓練として実施された。

夜間防災訓練は、千葉病院において、あらかじめ選出された宿直者（口腔外科歯科医師、看護師）及び病院勤務者等約20名が参加した。震度5強の地震発生に伴う火災を想定して実施された。

つづく火元責任者の通報訓練では、各教室幹事等学内における火元責任者約70名が参加し、「地震が発生！」という訓練放送の後、各自が担当地域を点検し、被害状況を防災センターへ報告するという訓練を行った。当訓練は、火元責任者の自

覚と「いざ」という時の意識の向上を目的としたものであり、各自の役割が改めて確認できる機会となった。

最後は、実習・講義棟3階教養系理科実習室前において、屋内消火栓操法の使用説明を実施した。施設課技術員から使用における注意点等の操作方法について説明がなされ、参加者の防災意識を高める有意義な訓練となった。



屋内消火栓操法の説明：平成25年3月25日（月）、千葉校舎実習・講義棟3階教養系理科実習室前

■第121回歯科医学教育セミナー開催

平成25年3月25日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第121回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「歯学部の臨床実習教育について」と題し、臨床教育委員長の矢島安朝教授、口腔健康臨床科学講座の杉戸博記准教授、有床義歯補綴学講座の上田貴之准教授がそれぞれ講演した。

はじめに、杉戸准教授より「平成24年度文部科学省・先導的大学の改革推進委託事業高齢社会を踏まえた医療提供体制見直しに対応する医療者教育の在り方に関する調査研究・歯学教育者のためのワークショップ参加報告」と題し、同ワークショップでの診療参加型実習に関する討議内容について報告がなされた。

次に、上田准教授より「歯学部の臨床実習教育について、超高齢社会に対応した歯科医学教育について一歯学教育者のためのWS参加報告」と題し、高齢者歯科医学教育の各校の取り組みについて現状報告がなされた。

最後に、矢島教授より「診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集に対する私立歯科大学協会の懸念」と題し、日本私立歯科大学協会および本学の臨床実習における自験の考え方と同ワーク

シヨップとの相違について講演があった。当日は109名の参加があり、講演後は、臨床参加型実習の考え方などについて活発な討議がなされた。



説明する杉戸准教授：平成25年3月25日（月）、千葉校舎第2教室

■平成24年度臨床研修修了式開催

平成24年度の臨床研修修了式が、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の三病院でそれぞれ行われた。

千葉病院では、平成25年3月27日（水）午前9時より、千葉校舎実習講義棟3階歯科臨床研修医室において、平成24年度歯科医師臨床研修修了式が行われた。

式は亀山敦史研修管理副委員長の開式の辞に始まり、高野伸夫千葉病院長から修了者を代表して、赤崎ゆかり臨床研修歯科医に修了証が授与された。引き続き高野伸夫千葉病院長による訓示、高橋俊之研修管理委員長の挨拶が行われ、修了式は無事に閉式した。

市川総合病院では、平成25年3月26日（火）午前8時半より、市川総合病院第2・3会議室において、医科と歯科の臨床研修医修了式が合同で行われた。式は司会の間部克善事務部長の開式の辞により始まり、安藤暢敏市川総合病院長から研修修了者（医科10名、歯科8名）に修了証が授与された。引き続き安藤市川総合病院長の訓示が行われ、その後西田次郎副病院長（研修管理委員長）、片倉朗歯科研修管理委員長の挨拶があり、修了式を閉式した。

水道橋病院では、平成25年3月18日（月）午前9時より、水道橋校舎6階研修室にて挙行された。式は司会の古澤成博研修管理委員長の開式の辞に続いて、一戸達也水道橋病院長より研修修了者15名に修了証が授与された。引き続き、一戸病

院長より訓辞があり、「平成24年度臨床研修歯科医症例報告会」（2月14日（木）開催）の最優秀賞（小笠原亜樹）ならびに優秀賞2名（福田有美香、新田由貴江）を発表し、水道橋病院ならびにノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社からの記念品を授与し、修了式を閉式した。



訓示を述べる高野千葉病院長：平成25年3月27日（水）、千葉校舎実習講義棟歯科臨床研修医室



修了証を授与する安藤市川総合病院長（左）：平成25年3月26日（火）、市川総合病院第2・3会議室



閉式後に一戸水道橋病院長と古澤研修管理委員長を囲んで：平成25年3月18日（月）、水道橋病院6階研修室

大学院ニュース

■第363回大学院セミナー開催

平成25年2月1日（金）午後5時30分より、千葉校舎第2教室において、第363回大学院セミナーが開催された。今回は、Harvard University、The Forsyth InstituteのDepartment of Immunology and Infectious Diseasesの研究員である西村壽晃先生をお迎えし、「ビスホスホネート製剤による顎骨壊死」と題した講演を伺った。

ビスホスホネート製剤は約30年近く、骨粗鬆症、骨転移腫瘍、多発性骨髄腫など広く治療に応用されてきた。しかし、ビスホスホネート関連顎骨壊死が2003年に初めて報告され、歯科臨床の中で大きな問題となり、以来その病因と治療法を探求すべく多くの臨床報告をはじめ、臨床・基礎研究がなされている。病因として、骨代謝回転の抑制、上皮再生の抑制、血管新生抑制、細菌感染

などが想定されているが、具体的な発症機序は、未だ明らかになっていない。このような背景に触れ、実際にいま取り組んでいる、発症機序の解明、すなわち、ビスホスホネートによる顎骨壊死のマウスモデルを作製し、ビスホスホネートの長期投与後にマウス抜歯窩に細菌感染を起こし、誘導するもので、抜歯後2週間経過しても抜歯窩が閉鎖せず腐骨が露出したままになる。病巣局所における歯肉線維芽細胞からのKeratinocyte growth factor (KGF) 産生が抑制されており、それが上皮治癒を阻害し、抜歯窩を閉鎖できない可能性を発見した。さらに、抗生物質投与によりビスホスホネート関連顎骨壊死が改善されることから細菌感染が発症に関わっていることも確認した。一方、ヒト顎骨壊死組織において $\gamma\delta$ T細胞が組織へ集積している事、および、ビスホスホネートを抗原として認識して増殖する $\gamma\delta$ T細胞がin vitroにおいてヒト歯肉線維芽細胞に対して細胞障害を起こすことなどから、免疫応答が病因に関与している可能性を見出したことなど、ヒトの病理組織および、マウスモデルを用いて免疫、炎症、感染そして組織再生の観点からビスホスホネート関連顎骨壊死の発症機序を考察された。講演後は多くの質問があり活発な討議が展開され、集まった基礎系、臨床系の大学院生、教職員に多大な感銘を与えた。

その後、主催した歯科矯正学講座内で行われた懇親会では先生の研究のご苦労やプライベートな質問にも丁寧にお話くださり、本学元衛生学教授 西村正雄先生の甥御さんであることもわかって話が弾み、和やかな時間を共にした。



講演される西村先生：平成25年2月1日（金）、千葉校舎第2教室

■第364回大学院セミナー開催

平成25年2月15日（金）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第364回大学院セミナーが開催された。今回は、元広島大学歯学部薬理学教授で、現在、広島大学名誉教授・日本薬科大学薬物治療学教授としてご活躍の土肥敏博先生をお迎えし、「鎮痛薬の新たな展開」と題した講演を伺った。

土肥先生が本校で講演されるのは平成19年7月以来二回目である。今回の講演では、痛みの発症機構、治療薬の作用機序、副作用の発生機構、相互作用のなど基本的な知識を整理し、①現在展開されている選択的COX-2阻害薬で生じた心筋梗塞、脳梗塞などの心血管合併症リスク、②アセトアミノフェンの用量設定を高くした場合の効用、安全性、歯科領域での有効性、③NSAIDsや三環系抗うつ薬、抗てんかん薬が効きにくい三叉神経痛・慢性疼痛に対する新たな対策として考えられたグリシントランスポーター阻害薬による神経障害性疼痛治療法について1時間30分にわたり詳しい説明がなされた。講演終了後、活発な質疑応答がなされ、臨床医、基礎研究者にとって大変有意義なひと時であった。



講演される土肥先生：平成25年2月15日（金）、千葉校舎第2教室

■大学院入学試験（Ⅱ期）実施

平成25年3月2日（土）午前9時30分より、千葉校舎において、平成25年度大学院入学試験（Ⅱ期）が実施され、外国語（英語）試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。今回は、志願者18名が受験し、3月8日（金）正午に合格者の発表が行われた。

■平成25年度岩垂育英会奨学生に山本将仁・矢島由香大学院生が採用される

岩垂育英会は、大阪大学歯学部薬理学講座に本部事務局があり、毎年、歯科医学の基礎的研究に携わる大学院生の出願テーマの内容を審査し、優れている10名の学生に学資補助を行っている。平成5年に山岸久子大学院生(薬理学)が奨学金を授与された経緯があるが、それ以降本学からの出願者は途絶えていた。25年度については、育英会役員の川口 充教授の喧伝により、本学から解剖学講座の山本将仁大学院生(3年)とオーラルメディスン・口腔外科学講座から薬理学講座に向向して基礎研究を行っている矢島由香大学院生(2年)の2名が応募したところ、両名が採用される快挙となった。発表会を兼ねた授与式と懇親会が平成25年3月3日(日)午前10時から、大阪大学中



発表する山本大学院生：平成25年3月3日(日)、大阪大学中島会館



発表する矢島大学院生：平成25年3月3日(日)、大阪大学中島会館

島会館で行われた。発表会では、山本大学院生が「胎生期外側翼突筋の形成と支配神経について」、矢島大学院生が「シスプラチンに対して抗腫瘍作用増強効果を持つジメルカプトスルホン酸ナトリウムの腎毒性軽減作用の機構」をそれぞれ5分から7分程度説明した。発表終了後、同会館で岩垂薫子理事長や役員の先生方と大学院学生との懇親会が催され相互の交流が活発に行われた。

(薬理学講座 川口 充)

■平成24年度大学院歯学研究科修了式開催

平成25年 3月15日(金)午前10時より、平成24年度大学院歯学研究科修了式が、第118期卒業証書授与式と合同で行われ、本年度大学院修了生37名がアカデミックガウンと帽子を装い出席した。修了式では、修了生代表として黒田英孝大学院生(歯科麻酔学)に井上 孝大学院研究科長から修了証が授与された。式終了後、厚生棟2階で大学院学生会主催の懇親会が開催された。本年度より設けられた大学院同窓会長賞の表彰が行われ、黒田英孝(歯科麻酔学)、山田裕介(有床養歯補綴学)の2名が宮地建夫同窓会副会長から同窓会長賞が授与された。懇親会は、金子 讓理事長、井出吉信学長、井上大学院研究科長をはじめとした多くの大学院の指導教授の出席のもと、盛会のうちに終了した。

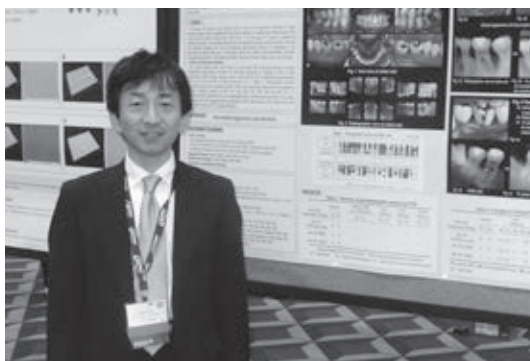


平成24年度大学院歯学研究科修了式：平成25年3月15日(金)、千葉校舎講堂

トピックス

■澁川義宏准教授 アメリカ歯周病学会2012年大会で最優秀賞受賞

平成24年9月29(土)から10月2日(火)にアメリカ(ロサンゼルス)で開催された第98回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2012年大会において、口腔健康臨床科学講座の澁川義宏准教授が臨床演題部門(ポスター発表)で最優秀賞を受賞した。この賞は本学術大会で発表された演題の中から選考を行い、卓越した学識と技術に裏付けられた優れた症例報告に贈られる賞である。今回、受賞した演題は、「Long-term follow-up of regenerative therapy for generalized aggressive periodontitis」であった。侵襲性歯周炎(aggressive periodontitis)は、年齢に比較して急速な歯周組織破壊(歯槽骨吸収、アタッチメントロス)を特徴とする歯周炎である。本演題では、侵襲性歯周炎患者に対して抗菌療法後に再生療法を行い、歯周病原細菌検査と歯周組織検査のデータの推移を長期的に観察したものであった。その結果、再生療法によって歯周組織の状態が改善し、さらに、12年間のSPT(サポータティブペリオドンタルセラピー)においても、良好に維持されていたことを示した。このことは、長期にわたる継続した歯周病原細菌のコントロールが再生組織の良好な維持に影響を及ぼしたことを示唆した発表内容で、非常に高く評価された。



受賞した澁川准教授：平成24年10月2日(火)、アメリカ

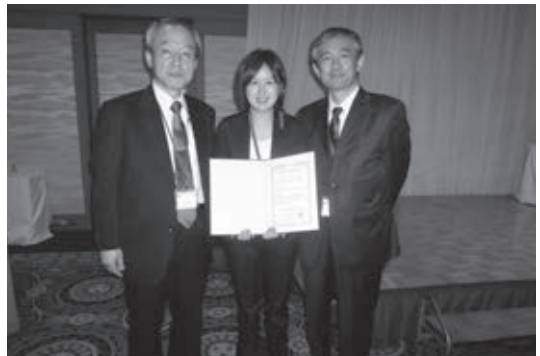
■前田日菜子初期臨床研修医 第49回日本腹部救急医学会総会で研修医優秀賞受賞

平成25年3月13日(水)・14日(木)の2日間、福岡市・福岡国際会議場で開催された第49回日

本腹部救急医学会総会において、市川総合病院の前田日菜子初期臨床研修医が研修医優秀賞を受賞した。受賞演題は「急性虫垂炎に対する保存的治療166例の検討」である。

本研究では、急性虫垂炎の保存的治療例の再発/再燃に関わる因子を検討することを目的に、当院の2005～2011年の7年間の急性虫垂炎、初回保存的治療166例について、retrospectiveに治療の内容と期間、細菌培養結果、および2012年6月までの観察期間における再発例について、再発までの期間、再発後の治療について検討した。その結果、急性虫垂炎保存的治療後には31.3%と高率に再発が見られたが、再発/再燃の危険因子は明らかではなかった。しかし、重症とされる腫瘍/膿瘍形成例を含めて保存的治療により一旦軽快が見込めることが明らかになり、夜間などに緊急手術を行う従来戦略を見直し、保存的治療軽快後に待期的腹腔鏡下虫垂切除術を行う戦略が妥当なことが明らかにされた。

今回、松井淳一外科学教授の指導のもと、市川総合病院2年間の初期臨床研修期間中に多くの症例をまとめた研究を行い、ポスター発表した。3月13日(水)夜の学会懇親会で総会会長から副賞とともに表彰された。前田研修医は4月から慶應義塾大学一般消化器外科学教室に入局し平塚市民病院で外科医としての第一歩を踏み出すことになった。今後の活躍が期待される。



受賞した前田研修医(中央)、ならびに第49回日本腹部救急医学会総会会長橋爪誠九州大学教授(左)と松井教授：平成25年3月13日(水)、福岡市・福岡国際会議場

学生会ニュース

■第118期卒業生謝恩会

第118期卒業生謝恩会は、平成25年3月15日(金)午後6時30分よりホテルニューオータニ幕張2階「鶴の間」において開催された。

総合司会の仲谷龍太郎君と細川ゆり子さんの開会の辞により幕を開けた本会は、大島俊彦謝恩会実行委員の挨拶、金子 譲理事長、井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会会長の祝辞の後、小林一公父兄会会長の謝辞並びに、乾杯の発声で声高らかに盃を交わした。歓談中には井出学長より各賞受賞者が発表され、デンツプライ賞は大島俊彦君、鬼谷 薫さんに、パナソニック賞は池田麻乃さんに手渡された。

続いて、在学中に118期生の修学指導を担当した学年主任並びに副主任の先生方へ代表学生より感謝の花束贈呈が行われ、それに応じて、歴代の学年主任を務めた中村光博先生、阿部伸一先生、石原和幸先生、井上 孝先生からそれぞれ卒業生に向け思い出話や心温まる御礼の言葉が贈られた。

会の後半には、118期同窓会会長の木村基善君よりクラス会の名称が「良い歯会(いいはかい)」と

発表された。このクラス会名には、「118=いいはと親しみやすく、入学当時から同級生の間に浸透していたことと、今後の歯科医学・歯科医療の発展と患者様の歯の健康を支え、よい歯を作って行こう。」という願いが込められている旨、説明がされた。

楽しい時は瞬く間に過ぎさり、毎年の恒例となった学年主任・副主任と卒業生全員が登壇し、参加者全員での校歌斉唱。最後は謝恩会委員長の勝見吉晴君が閉会の辞に挨拶をして午後9時に閉会となった。



感謝の意を述べる勝見吉晴謝恩会実行委員長：平成25年3月15日(金)、ホテル・ニューオータニ幕張



謝恩会終了後118期生全員で記念撮影：平成25年3月15日(金)、ホテル・ニューオータニ幕張

■第118期卒業生から大学に卒業記念品贈呈

第118期生からの卒業記念品として、新水道橋校舎竣工時の備品費用として金50万円が大学に寄贈された。平成25年3月15日（金）、第118回卒業証書・学位記授与式終了後に行われた記念品贈呈式において、卒業生代表の勝見吉晴君から井出吉信学長に目録が手渡された。

■自動車部 医歯薬連盟戦最終戦結果報告

平成25年3月10日（日）、茨城県の筑波サーキット・ジムカーナコースで医歯薬連盟戦の最終戦が行われた。

結果は、根本悠平君(1年)が優勝、谷本雄輝君(3年)が準優勝とワンツーフィニッシュ、本学から2人表彰台に上がるようになった。

また、今回は最終戦ということで年間シリーズの順位も決定し、根本君が総合優勝、谷本君が総合4位という結果だった。1年生で総合優勝というのは医歯薬連盟戦始まって以来の快挙であり、現役部員は勿論のこと、OBの先生方も根本君の栄誉を称えるとともに今後も大きな期待を寄せて

いる。

来年度の連盟戦第1戦はゴールデンウィーク頃で、神奈川県の中サーキット藤野でレーシングカートを予定している。

来年度も好成績を残せるよう現役一同頑張りたいと決意を誓った。



向かうところ敵なし。表彰台1・2位を獲得：平成25年3月10日（日）、筑波サーキット

図書館から

■本学教員著書について

斎藤 淳, 杉戸博記 [ほか] 執筆 臨床歯周病学 第2版, 医歯薬出版, 2013

阿部伸一著 口が元気なら、若い！ほけない！
口腔からウェルエイジング, クインテッセンス出版, 2013

矢島安朝著 本当に聴きたい！インプラントの話
角川マガジズ, 2013

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

■外国雑誌の電子ジャーナル利用について

本年、2013年も電子ジャーナルについて、大手出版社等を中心に7,500タイトルが千葉、市川、水道橋の3キャンパスから利用可能となっている。図書館ホームページ「電子ジャーナル」項の「当館所蔵フルテキスト (A-to-Z)」より検索・アクセスできる。

■東京歯科大学図書分類変更について

本学図書分類について、医歯学分野の細分化に伴い、分類の新項目を追加し、一部改訂することが図書委員会(2013.3.27)において了承された。この改訂は平成25年4月より適用する。

歯科衛生士専門学校ニュース

■第62回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式挙

第62回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は、平成25年3月8日(金)午後1時から、千葉校舎講堂において厳粛な雰囲気の中で挙

行された。式は杉山哲也教務部長が司会を務め、開式の辞に始まり、国歌斉唱、高橋俊之副校長による学事報告の後、石井拓男校長から44名の第62期卒業生ひとりひとりが緊張の面持ちで卒業証書を授与された。続く褒賞授与では、成績がもっとも優秀であった門田枝里子さんに学校長賞が、西村香苗さんを代表として、岡田理恵子、鈴木あゆみ、黒田奈那、花島早織さんに優等賞が授与された。さらに、3年間無遅刻・無欠席でよく勉学に励んだことを讃え、諏訪あかねさんとともに、岩崎亜耶、小林亜佳音、鈴木ひとみ、三上真貴子、御園 瞳、森 小百合さんに皆勤賞が、また、鈴木あゆみさんをはじめ、青柳 翠、伊澤沙織、海老澤友梨、片海果菜、門田枝里子、菊地絵梨香、木村慶乃、土屋はづき、林 真紀、守田千里、綿引美香さん

に精勤賞が授与された。また、学外からの褒章として、千葉県知事賞が門田枝里子さんに、公益社団法人日本歯科衛生士会学生部員会長表彰が西村香苗さんに授与された。

石井拓男校長の告辞に続き、来賓としてご臨席頂いた金子 譲学校法人東京歯科大学理事長のご祝辞を頂くと共に、井出吉信東京歯科大学学長、市川明美東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞を頂いた。在校生代表の2年生、早田安里さんから送辞を受けた後、卒業生の代表として門田枝里子さんが3年間の思いを込めて答辞を述べた。「衛生士学校校歌」と「蛍の光」を厳かに斉唱し、第62回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は終わり、卒業生たちは歯科界へと巣立っていった。

引き続き行われた記念品贈呈式では、市川同窓会長から代表の岩崎亜耶さんに袱紗が手渡された。また、在校生の長谷川由衣さんからスूपカップと花が卒業生の小林亜佳音さんに贈られ、



石井校長より卒業証書を授与される卒業生：平成25年3月8日(金)、千葉校舎講堂



学校長賞を受賞する門田枝里子さん：平成25年3月8日(金)、千葉校舎講堂



答辞を述べる卒業生：平成25年3月8日(金)、千葉校舎講堂



告辞を述べる石井校長：平成25年3月8日(金)、千葉校舎講堂

卒業生を代表して、本田はるなさんから後輩たちのために文具一式が学校へ贈呈された。最後に、3年間一緒に学んだ仲間と共に、恩師を囲んで卒

業記念の集合写真撮影が行われ第62期卒業式のすべての行事が終了した。



恩師を囲んで卒業記念の集合写真：平成25年3月8日（金）、千葉校舎講堂

学事報告

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
副校長 高橋 俊之

現在、本校に在籍する学生の数は、132名で、これに対し教授の任にあたる教員の数は、126名であります。

本日、第62回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、44名であります。これを本校創立以来の卒業生に合わせますと、総数2,283名となります。

平成25年3月8日

告 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校長 石井 拓男

本日ここに、東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多数のご来賓をお迎えして、また、保護者の皆様にご列席いただき、第62回卒業証書授与式を挙行致しますことをこころからお喜び申し上げます。

卒業生の皆様、ほんとうにおめでとう御座います。そして、この日を待ち望んでおられた保護者の皆様方には、お子様の晴れの姿をご覧になり、感慨もまたひとしおのことと存じます。3年の月日は、過ぎてみれば短く感じますが、その間、色々のご心労もあったかと存じます。卒業生をこれまで支えていただいたことに感謝申し上げます。

卒業生の皆さまは、この3年間で過ぎてみての今の気持ちはいかがでしょうか。今日のこの卒業の日は、人生においても思い出に残る節目となる日になると思います。本日の卒業式を心に深く刻み、歯科衛生士学校で過ごした日々を思い返し、明日への糧として頂きたいと存じます。

さて、皆さまを待っている歯科界は、これまでに無かった新たな時代に入りました。それを象徴しているのが、歯科衛生士の業務についての議論であり、実際に変わりつつある歯科衛生士の活躍する現場なのです。

小児のう蝕とその继发症を中心としていた歯科保健医療は、主として歯科診療所に受診する方々への歯科医療提供を求められていました。しかし、20年ほど前に在宅歯科医療を推進するための色々な制度が作られたことから、歯科医療の提供体制が変わり始めました。昨年の診療報酬改定における周術期口腔機能管理は、医科疾患患者へ歯科医療を提供することを初めて制度化した注目すべきものでした。同時に医療連携、チーム医療というこれまでにない医療提供体制への議論が高まりました。これらの動きの中で、歯科衛生士の業務は常に主要な項目として位置づけられております。

卒業生の皆さまは、おそらく歯科衛生士の歴史にのこる大きな変動のその時に歯科衛生士学校で学び、歯科医療の現場に出て行くことを自覚して頂きたいと思います。そして、歯科医療の現場に立った時、東京歯科大学歯科衛生士専門学校で学んだことを誇りとして新たな歯科衛生士像をめざし、活躍されるのが私たちの喜びであります。皆さまが歯科衛生士として、我が国の健康と福祉に貢献されますことを祈念して告辞といたします。

■歯科衛生士専門学校平成24年度一般入学試験(Ⅱ期)実施

平成25年3月2日(土)東京歯科大学歯科衛生士専門学校の一般入学試験Ⅱ期が実施され、学科試験(総合基礎問題)および面接試験が行われるとともに、4日(月)には入試選考委員会が開催され、合否の結果が本人宛に郵送された。

平成25年度の一般入試Ⅱ期志願者数は、8名(本県出身6名、他都道府県出身2名)で、募集枠を超えるものであった。これは、昨今の経済状況と就職難から国家資格取得(本校国試合格率100%)を目指す学生の増加と、高い就職率(本校就職率100%)が影響しているものと考えられる。

来年度も引き続き学校説明会の充実、積極的な学校訪問の実施、ホームページの刷新、ポスターの製作・配付などを行い、より多くの受験生の確保に努めたいと思う。

歯科衛生士専門学校にとって、レベルの高い歯科衛生士教育を行うのに必要な優秀な学生を継続的に確保するためには、今後も地道な努力が必要であると考えている。

■第22回歯科衛生士国家試験実施

平成25年3月3日(日)第22回歯科衛生士国家試験が全国の試験場で一斉に実施された。

本校の卒業予定者44名全員が、千葉県試験場の明海大学(浦安キャンパス)にて受験した。試験は4肢択一および4肢択二のマークシート方式で行われ、午前110問(3時間)、午後110問(3時間)の計220問が出題され、午後4時に終了した。結果は3月27日(水)午後2時に厚生労働省ならびに歯科医療研修振興財団にて発表され、本校の受験者44名は全員合格した。全国の受験者総数6,064名のうち、合格者は5,832名で、合格率は96.2%であった。



国家試験当日の集合写真：平成25年3月3日(日)、明海大学(浦安キャンパス)

平成 25 年度 学年暦

年 月 日	曜	行 事 予 定	
平成 25 年 4 月	1 日	月	新入生入学前オリエンテーション(1日目) 5年生オリエンテーション・登院器材刻印・検査 5年生登院式
	2 日	火	新入生プレースメントテスト 2・3・4年生オリエンテーション
	3 日	水	2・3・4年生前期授業開始
	5 日	金	入学式(2～4年休講日)、新入生オリエンテーション(2日目)
	8 日	月	1年生前期授業開始
	30 日	火	} 1～4年休講日(4/27～5/6連休)
	5 月 2 日	木	
	7 日	火	
8 日	水	1年生振替授業(月曜日分) 2～4年生振替授業(月曜日分)	
21 日	火	解剖慰霊祭(3年生)	
22 日	水	} 新入生物学外セミナー	
24 日	金		
6 月 5 日	水		
14 日	金	6年生第1回総合学力試験(6日(木)まで)(仮) 実験動物供養祭(千葉校舎)(3年生)	
7 月 18 日	木	2～4年生振替授業(月曜日分)	
19 日	金	1・2・3・4年生前期授業終了	
22 日	月	1～4年生夏期休暇 開始	
9 月 2 日	月	新館校舎開校式	
3 日	火	6年生第2回総合学力試験(4日(水)まで)(仮)	
7 日	土	5年生第1回総合学力試験	
13 日	金	1～4年生夏期休暇 終了	
17 日	火	1・2・3・4年生前期定期試験(27日(金)まで)	
10 月 1 日	火	1・2・3・4年生後期授業開始	
17 日	木	振替授業(月曜日分)	
23 日	水	振替授業(金曜日分)	
25 日	金	} 第45回東歯祭(準備・後片付けを含む)	
28 日	月		
30 日	水		
31 日	木	振替授業(月曜日分) 6年生第3回総合学力試験(1日(金)まで)(仮)	
11 月 9 日	土	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、 編入学A、学士等特別選抜A(予定)	
12 月 17 日	火	} 1・2・3・4年生前期追・再試験	
20 日	金		
平成 26 年 1 月	25 日	水	} 冬期休暇
	7 日	火	
	8 日	水	
	14 日	火	6年生第4回総合学力試験(8日(水)まで)(仮) 1・2・3・4年生授業再開 振替授業(月曜日分)
	18 日	土	大学入試センター試験(19日(日)まで)
	29 日	水	1・2・3・4年生後期授業終了
2 月 2 日	日	一般入学試験(I期)、センター利用入試(I期)(予定)	
6 日	木	1・2・3・4年生後期定期試験(14日(金)まで)	
12 日	水	本学創立記念日	
15 日	土	5年生第2回総合学力試験	
17 日	月	4年生総合学力試験	
18 日	火	3年生総合学力試験	
19 日	水	2年生総合学力試験	
20 日	木	4年生共用試験(CBT)	
21 日	金	1年生総合学力試験	
23 日	日	4年生共用試験(OSCE)	
27 日	木	} 1・2・3・4年生後期追・再試験	
3 月 4 日	火		
1 日	土		
8 日	土	5年生総合学力追・再試験 一般入学試験(II期)、センター利用入試(II期)、 編入学B、学士等特別選抜B(予定)	
10 日	月	3・4年生総合学力追・再試験	
11 日	火	1・2年生総合学力追・再試験	
12 日	水	4年生共用試験(CBT)追・再試験	
15 日	土	第119回卒業式(予定)	

平成 25 年度 第 1 学年・第 2 学年時間割表

		水道橋・さいかち坂校舎											
		第1学年											
		月	火		水		木		金				
前期	8:40 ~ 10:05	A 数学 I	B 医療法学 (歯科医学史)		コミュニケーション・学 I		基礎生物 I	一般生物 I	基礎物理 I a	一般物理 I	一般化学 I	基礎化学 I	
	10:15 ~ 11:40	A 医療法学	B 数学 I	健康学	A 英語 I	B 心理学	A 自然科学演習 (化学・物理)	A 自然科学 (化学・物理)	B 自然科学演習 (化学・物理)	A 独語 I	B 英語 I		
	12:40 ~ 14:05	基礎物理 I β		A 社会福祉	B 独語 I	A 心理学	B 実用日本語	A 自然科学演習 (化学・物理)	B 自然科学 (化学・物理)	体育			
	14:15 ~ 15:40	経済学	哲学	A 独語 I	B 社会福祉	A 実用日本語	B 英語 II	A 英語 II	B 独語 I				
	15:50 ~ 17:10	基礎理科	ホールルーム	補習		教養セミナー		情報科学					
		水道橋・さいかち坂校舎											
		第2学年											
		月	火	水		木		金					
前期	9:30 ~ 10:55	細胞分子生物学	A 医療統計	B 実習自然科学 II		生理学		A 生理学講義・実習	B 組織学講義・実習	解剖学 講義・実習	生物の構造と機能		
	11:05 ~ 12:30	細胞分子生物学	A 科学英語	A 実習自然科学 II		B 科学英語		A 組織学講義・実習	B 生理学講義・実習	解剖学 講義・実習	生体の科学		
	13:30 ~ 14:55	歯科基礎科学	A 実習自然科学 II		B 科学英語		B 自然科学 (化学・物理)		A 組織学講義・実習	B 生理学講義・実習	口腔解剖学	A 歯科医学英語	B 医療統計
	15:05 ~ 16:30	組織学	B 独語 I		B 自然科学 (化学・物理)		B 独語 I		B 生理学講義・実習		口腔解剖学	コミュニケーション・学 II	補習
	16:40 ~ 18:00	補習	ホールルーム	コミュニケーション・学 II		B 独語 I		B 独語 I		B 生理学講義・実習		口腔解剖学	コミュニケーション・学 II
		水道橋・さいかち坂校舎											
		第1学年											
		月	火	水		木		金					
後期	8:40 ~ 10:05	基礎物理 II β	A 英語 I	B 実習自然科学 I		A 英語 II	B 心理学	A 生命倫理	B 自然科学演習	基礎理科			
	10:15 ~ 11:40	A 歯科基礎数学	B 人類学	A 美術	B 実習自然科学 I		A 心理学	B 英語 I	A 自然科学演習	B 生命倫理	一般化学 II	基礎化学 II	
	12:40 ~ 14:05	A 人類学	B 歯科基礎数学	A 実習自然科学 I		B 美術	独語 II	中国語	韓国語	生物 II		体育	
	14:15 ~ 15:40	A 数学 I	B 英語 II	A 実習自然科学 I		B 数学 I	基礎物理 II a	一般物理 II	独語 II	中国語	韓国語		
	15:50 ~ 17:10	補習	ホールルーム	教養セミナー		人間生物学		生物 II					
		水道橋・さいかち坂校舎											
		第2学年											
		月	火	水		木		金					
後期	9:30 ~ 10:55	生理学	A 生理学講義・実習	B 組織学講義・実習		解剖学		微生物学	歯科理工学	発生病態学			
	11:05 ~ 12:30	生理学	A 生理学講義・実習	B 組織学講義・実習		解剖学		微生物学	歯科理工学	英語 III (歯科医学英語講義)			
	13:30 ~ 14:55	口腔生理学	B 生理学講義・実習		口腔組織学		生化学	口腔解剖学講義・実習	歯科薬理学				
	15:05 ~ 16:30	口腔生理学	B 生理学講義・実習		口腔組織学		生化学	口腔解剖学講義・実習	薬理学				
	16:40 ~ 18:00	補習	ホールルーム	B 生理学講義・実習		口腔組織学		生化学	口腔解剖学講義・実習	補習			

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 藤リハビリテーション学院(学生63名、教員2名)
平成25年2月4日(月)～8日(金)解剖学実習見学
- 藤リハビリテーション学院(学生33名、教員2名)
平成25年2月13日(水)～14日(木)解剖学見学
- 長野県公衆衛生専門学校(学生15名、教員2名)
平成25年2月19日(火)解剖標本室、千葉病院見学
- 専門学校日本医科学大学校(学生69名、教員7名)
平成25年2月28日(木)解剖標本室、解剖学実習室見学
- 太陽歯科衛生士専門学校(学生38名、教員2名)
平成25年3月1日(金)解剖学実習室、千葉病院見学
- 東京医療専門学校(学生30名、教員1名)
平成25年3月4日(月)～7日(木)解剖学教室見学
- 国際医療福祉専門学校(学生46名、教員3名)
平成25年3月11日(月)～13日(水)解剖学実習見学
- 埼玉県立常盤高等学校 看護専攻科(学生79名、教員4名)
平成25年3月14日(木)解剖学標本室、解剖学実習室見学
- 千葉・柏リハビリテーション学院(学生82名、教員4名)
平成25年3月21日(木)～22日(金)

市川総合病院

- 学校法人佐伯学園 佐伯栄養専門学校(学生17名)
平成25年2月2日(土)市川総合病院見学
- 国立国際医療研究センター国府台病院(内科医師2名、臨床検査技師長1名、薬務主任1名、副看護師長1名、医事室患者相談専門職1名、合計6名)
平成25年2月28日(木)市川総合病院見学

■海外出張

- 片山正輝講師(市病・脳神経外科)
3rd SNIS International Endovascular Stroke Conference (IESC) and Joint Cerebrovascular Section Annual Meeting に出席、および発表のため、平成25年2月2日(土)から6日(水)までアメリカ・ハワイへ出張。
- 逢坂竜太大学院生(口腔外科学)
KADVO 第30回フィリピンデンタルフリークリニックに参加のため、平成25年2月10日(日)から14日(木)まで、フィリピン・セブ島へ出張。

- 松坂賢一准教授(臨床検査病理学)
大学院Elective Study(海外研修基礎コース)引率のため、平成25年2月13日(水)から19日(火)までアメリカ・ハワイへ出張。
- 大峰悠矢大学院生、笠原正彰大学院生(解剖学)、武田侑大大学院生(臨床検査病理学) 佐藤絵美子大学院生(市病・オーラルメディシン)
大学院Elective Study(海外研修基礎コース)に参加のため、平成25年2月13日(水)から19日(火)までアメリカ・ハワイへ出張。
- 山添真治助教(市病・放射線科)
「CT and MRI seminar 2013」日立メディコ主催の講演のため、平成25年2月28日(木)から3月3日(日)までタイ・バンコクへ出張。
- 茂木悦子准教授(歯科矯正学)
大学院Elective Study(海外研修基礎コース)引率のため、平成25年3月5日(火)から10日(日)までシンガポールへ出張。
- 藤瀬和隆大学院生(微生物学)、重政理香大学院生(口腔外科学)
大学院Elective Study(海外研修基礎コース)に参加のため、平成25年3月6日(水)から10日(日)までシンガポールへ出張。
- 内山健志教授、須賀賢一郎講師(口腔外科学)
ベトナム社会主義共和国、ホーチミン市Odontomaxillo facial Center への短期医療援助(手術器具の寄贈と援助活動継続性の意見交換)のため、平成25年3月7日(木)から10日(日)まで、ベトナム・ホーチミンへ出張。
- 小野寺晶子助教(生化学)
大学院Elective Study(海外研修基礎コース)引率のため、平成25年3月10日(日)から14日(木)まで香港へ出張。
- 江木勝彦大学院生(小児歯科学)
大学院Elective Study(海外研修基礎コース)に参加のため、平成25年3月10日(日)から14日(木)まで香港へ出張。
- 大久保真衣講師(摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科)、大平真理子大学院生(クラウンブリッジ補綴学)
The Dysphagia Research Society 21st Annual Meetingに出席、および発表のため、大久保真衣講師は平成25年3月13日(水)から18日(月)まで、大平真理子大学院生は平成25年3月12日(火)から18日(月)まで、アメリカ・シアトルへ出張。

- 井上 孝教授(大学院研究科長・臨床検査病理学)
IADR (International Association for Dental Research) に出席、および発表、Pulp Biology Group Meetingに参加、ワシントン大学、ブリティッシュコロンビア大学との共同研究打ち合わせ、FDIとIADRの協力体制視察のため、平成25年3月19日(火)から27日(水)までアメリカ・シアトル、カナダ・バンクーバーへ出張。
- 櫻井 薫教授(有床義歯補綴学)、石原和幸教授(微生物学)
IADR (International Association for Dental Research) に参加のため、平成25年3月20日(水)から25日(月)まで、アメリカ・シアトルへ出張。
- 茂木悦子准教授(歯科矯正学)、佐藤 裕准教授(生化学)
IADR (International Association for Dental Research) に出席、および発表のため、茂木悦子准教授は平成25年3月19日(火)から25日(月)まで、佐藤 裕准教授は平成25年3月20日(水)から25日(月)まで、アメリカ・シアトルへ出張。
- 武本真治講師、副島寛貴大学院生(歯科理工学)
カリフォルニア大学・サンフランシスコ校にて、ベイラー歯科大学・Hummel准教授との研究打ち合わせ、およびIADR (International Association for Dental Research) に出席、および発表のため、平成25年3月18日(月)から25日(月)まで、アメリカ・サンフランシスコ、シアトルへ出張。
- 野村真弓助教(歯科矯正学)、佐々木穂高助教(口腔インプラント学)、山田将博助教(有床義歯補綴学)、四宮敬史助教、塚越絵里非常勤講師(薬理学)

- IADR (International Association for Dental Research) に出席、および発表のため、平成25年3月19日(火)から25日(月)まで、アメリカ・シアトルへ出張。
- 西宮絃子大学院生、山崎 真大学院生、辻 将大学院生、萩野崇真大学院生、萩尾美樹大学院生(有床義歯補綴学)、宮井友理大学院生(クラウンブリッジ補綴学)、堀内 章大学院生(歯科保存学)、齋藤裕香大学院生(歯科矯正学)、齊藤教子大学院生(オーラルメディスン・口腔外科学)
IADR (International Association for Dental Research) に出席、および発表のため、平成25年3月19日(火)から25日(月)まで、アメリカ・シアトルへ出張。
- 中島 啓大学院生(臨床検査病理学)
IADR (International Association for Dental Research) に出席、および発表のため、平成25年3月19日(火)から26日(火)まで、アメリカ・シアトルへ出張。
- 谷川雄一レジデント(口腔健康臨床科学)、三井智治大学院生(口腔健康臨床科学)
IADR (International Association for Dental Research) に出席、および発表のため、平成25年3月20日(水)から25日(月)まで、アメリカ・シアトルへ出張。
- 渡邊浩章助教、山村啓介大学院生(歯科保存学)
The 17th APEC (Asian Pacific Endodontic Confederation) に出席および発表のため、平成25年3月22日(金)から24(日)まで、韓国・ソウルへ出張。

大学日誌

平成25年2月

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 (金) | 第363回大学院セミナー
歯科衛生士専門学校1年生後期授業終了
防火・防災安全自主点検日 | 5 (火) | 大学院研究科委員会
給食委員会(水病) |
| 2 (土) | 一般入学試験(I期)・大学入試センター
利用試験(I期) [於：東京・大阪・福岡
会場]
第106回歯科医師国家試験[～3日] | 6 (水) | 一般(I期)・大学入試センター利用試験
(I期)合格通知日
リスクマネージメント部会
ICT会議
講座主任教授会(臨時)
ヒヤリ・ハット作業部会 |
| 4 (月) | 総合講義検討委員会
関東信越厚生局による歯科医師臨床研修
に係る意見交換会
臨床研修管理小部会 | 7 (木) | 1～4年生後期定期試験[～15日]
歯科衛生士専門学校1・2年生後期試験[～
21日] |
| 5 (火) | 大学院運営委員会 | | 感染制御委員会(市病) |

7 (木)	ICT委員会(市病) 緩和ケア講演会(市病)	21 (木)	2年生総合学力試験(水道橋校舎) 業務連絡会
8 (金)	褒章受賞者選考委員会 予算委員会 ICLS講習会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)		部長会(市病) 市川市医師会・歯科医師会員との合同講演会(市病) 診療録指導委員会(水病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)
13 (水)	臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会 歯科衛生士専門学校教員会 ICU運営委員会(市病) 千葉地裁による民事訴訟に関する説明会(市病) リスクマネジメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 臨床検査室委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)	22 (金)	3年生総合学力試験(水道橋校舎) 大学院入学試験(Ⅱ期)願書締切 災害対策実施部会(市病) 理事会(水病)
14 (木)	カルテ指導委員会 千葉校舎課長会 指導歯科医教育講習会 午後のリサイクル(市病) 手術室運営委員会(市病) 臨床研修歯科医症例報告会(水病)	23 (土)	4年生共用試験(OSCE)テストラン
15 (金)	第364回大学院セミナー 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日	24 (日)	4年生共用試験(OSCE)
16 (土)	5年生第2回総合学力試験(水道橋校舎) 患者サロン(市病)	25 (月)	1・2・3・4年生試験結果発表 第120回歯科医学教育セミナー 電子カルテシステム運用管理委員会(市病) NSTカンファレンス(市病) 教職員研修会(水病)
18 (月)	4年生総合学力力試験(水道橋校舎) 病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 医局長会 臨床教育委員会 医療安全管理委員会(市病)	26 (火)	データ管理者会議 カルテ整備委員会 情報システム管理委員会 診療記録管理委員会 医療サービスに関する検討会
19 (火)	1年生総合学力力試験(水道橋校舎) 一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター 利用試験(Ⅱ期)・編入学B・学士等選抜B 願書受付開始[～3/5] 医療連携委員会	27 (水)	25年度推薦入学者等の入学前スクーリング(水道橋校舎) 糖尿病ケアチームカンファレンス(市病) 衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)
20 (水)	4年生共用試験(CBT)(水道橋校舎) 学生部(課)事務連絡会 衛生委員会 5年生試験結果発表 機器等安全自主点検日 褥瘡対策委員会(市病) CPC(市病)	28 (木)	1～4年生後期追・再試験[～3/5] 教養科目協議会 公認会計士中間検査[～3/5](市病) 管理診療委員会(市病)
		平成25年3月	
		1 (金)	1～4年生後期追・再試験[～5日] 平成24年度口腔科学研究センターワークショップ 防火・防災安全自主点検日
		2 (土)	大学院入学試験(Ⅱ期) 5年生総合学力力追・再試験(水道橋校舎) 歯科衛生士専門学校一般入学試験(Ⅱ期)

4 (月)	臨床研修管理小部会 歯科衛生士専門学校一般入学試験選考委員会	13 (水)	大学院運営委員会 大学院研究科委員会 褥瘡対策委員会(市病) ICU運営委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医薬品安全管理委員会(水病)
5 (火)	一般(Ⅱ期)・センター(Ⅱ期)・編入学B・ 学士等選抜B願書受付締切 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 栄養委員会(市病)	14 (木)	第118回卒業証書授与式予行演習 4年生共用試験(OSCE)追・再試験 千葉校舎課長会 業務連絡会 高度・先進医療委員会 手術室運営委員会(市病)
6 (水)	リスクマネージメント部会 ICT会議 輸血療法委員会 臨床検査部運営委員会 基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 臨床検査運営委員会(市病) 口腔健康臨床科学講座会(水病)	15 (金)	第118回卒業証書授与式 大学院修了式 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日
7 (木)	カルテ指導委員会 第2回保険講習会 感染制御委員会(市病) ICT委員会(市病) 緩和ケアセミナー(市病) 第2回研修管理委員会(水病)	16 (土)	5年生臨床実習プログレス期間開始[~4/26] 患者サロン(市病)
8 (金)	大学院入学試験(Ⅱ期)合格発表 第62回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式 ICLS講習会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)	18 (月)	医療安全研修会 医療安全管理委員会(市病) 歯科医師臨床研修修了式(水病) 教職員研修会(水病)
9 (土)	一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター 利用試験(Ⅱ期)・編入学試験B・学士等 特別選抜B(水道橋校舎)	19 (火)	医療連携委員会
11 (月)	3・4年生総合学力追・再試験(水道橋校舎) 病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 医局長会 臨床教育委員会 地域連携委員会(市病)	21 (木)	学生部(課)事務連絡会 機器等安全自主点検日 部長会(市病) 診療録指導委員会(水病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)
12 (火)	1・2年生総合学力追・再試験(水道橋校舎) 一般(Ⅱ期)・センター(Ⅱ期)・編入学B・ 学士等選抜B合格通知日 臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会 5年生臨床実習保留者発表 歯科衛生士専門学校教員会 薬事委員会(市病)	22 (金)	健康管理委員会 講座主任教授会(臨時) 人事委員会 災害対策実施部会(市病)
13 (水)	4年生共用試験(CBT)追・再試験(水道橋 校舎)	25 (月)	防災訓練 褥瘡対策委員会 給食委員会 第121回歯科医学教育セミナー 電子カルテシステム運用管理委員会(市病) NSTカンファレンス(市病)
		26 (火)	薬事委員会 データ管理者会議 図書委員会 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会

26 (火)	医療ガス取扱い研修会(市病)	27 (水)	データ管理者会議(水病)
27 (水)	歯科臨床研修修了式		病院連絡協議会(水病)
	糖尿病教室(市病)		診療録管理委員会(水病)
	糖尿病ケアチームカンファレンス(市病)	28 (木)	教務部(課)事務連絡会
	輸血療法委員会(市病)		管理診療委員会(市病)
	CPC (市病)		理事会(水道橋校舎)
	衛生委員会(水病)		評議員会(水道橋校舎)

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 狩野龍二
椎名 裕 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
（平成25年3月現在）



編集後記

弥生3月。たくさんの卒業がありました。

第118期生の卒業式。卒業生達に向けた学長告辞の中に、ノーベル賞学者の山中伸弥先生の言葉がありました。

家族への感謝の気持ち。その家族に支えられて今の自分があるということの自覚の大切さ。一緒に歯科医師を目指してきた131名の卒業生達は、家族のような大切な仲間として、お互いに感謝の思いを持ちながら、歯科の世界のなかでそれぞれの道を歩いていきます。大学のなかで関わりあった多くの人たちとの大切な出会いを胸に…。

卒業生代表の來田祐実さんは、答辞として、ごちない挨拶から始まった同級生との関わりのなかで得られた、自分の成長について話しました。

手先が器用ではないという自分にとって、つらい実習を助けてくれた仲間や先生達への感謝、部活動のなかでリーダー学年としての責任を自覚させてくれたクラブへの感謝、医療の現場で大きな気づきと喜びを感じさせてくれた患者さんからの感謝の言葉、そして、おなじ目標を掲げ一致団結して勉学に励んできた大切な同級生達への感謝。彼らの卒業には溢れるほどの感謝があります。

学部の卒業、大学院の卒業、衛生士校の卒業、そして長年勤めてきた大学という組織からの卒業。そのひとつひとつが一人の大切な次へのステップ。住み慣れた世界から、新しい世界に飛び込む時の期待と、押しつぶされるほどの不安。その一歩を踏み出したとき、次の世界にも、素敵なことがたくさんあることに気がつきます。

古いものを捨てないと新しいものは入らない。卒業していく自分たちを育ててくれたいい思い出も、そして忘れてしまいたい思い出も、すべてに感謝しながら記憶の鞆に詰め込み、次の一歩を踏み出します。

さて、次へのステップへ向けて、新しい出会いのはじまりです。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）



早咲きの河津桜。
満開の花びらの下、千葉校舎の最後の卒業式が終わりました。
東京歯科大学の来るべき次の時代へ、どんな夢が、記憶のタイムカプセルのなかで詰め込まれていくのでしょうか。